



2021年5月31日放送

「第36回日本臨床皮膚科医会 ①

大会を終えて」

聖隷三方原病院 皮膚科
白濱 茂穂

はじめに

2020年9月21日、22日に第36回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会を静岡県浜松市で開催いたしました。日本臨床皮膚科医会は全国10ブロックで構成されています。その一つである南関東山静ブロックとしましては2014年に栗原誠一会頭によって開催された第30回学術大会に次いで6年ぶり6回目の開催になります。また、静岡県では初めての開催となりました。本総会・学術大会を開催させて頂き、大変光栄に存じております。このような機会をいただき、会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

2020年はコロナウイルスの影響を世界中で受けはじめ、同年、開催予定の東京オリンピックも延期になりました。医学会も開催予定の学会、研究会などが次々に中止や延期の処置がとられた年でもありました。本大会も当初は4月25日26日に開催予定で準備を進めていましたが、状況を見極め9月に延期といたしました。さらに、コロナ禍での開催でしたので感染リスクを一番に考え、現地開催に加えて、Live同時配信、さらに後から振り返りができるようにオンデマンド配信によるハイブリッド開催といたしました(図1)。



図 1

テーマ：その素朴な疑問に答えたい

第36回大会のテーマは「その素朴な疑問に答えたい」としました。私たちは、医学部を卒業後、数多くの進むべき選択肢の中より皮膚科学を選びました。そして、日々、皮膚科に関する基礎研究、皮膚疾患の診断・治療、患者さんの心のケアなどそれぞれの立場で従事しております。たとえば、乾癬、私はその病変部位にコールタールを外用した最後の世代になるかなと思います。若い人達にはコールタールという言葉そのものが死語になっております。今では生物学的製剤、つまり注射薬によって症状をよくすることができる時代になってきました。

私が皮膚科医の第一歩をあゆみ始めた頃に比べて、皮膚科の様々な領域で病因の解明、治療法の開発が進み、驚くべき時代の変化があったと思います。そのため、その進歩についていくことが、とても困難なほど新しい知見が増えてきています。そうした中、初心に戻って「結局、湿疹ってどういう病気なんだろう？」あるいは、「今さら聞けない？あのことは本当のところどうなっているのだろうか？」などなど、日頃もっておられる些細な疑問があると思います。そこで、会員の皆様同士が本音で意見を出し合っただき、素朴な疑問ができるだけ解消されればと願ってこのテーマに決めました。大会に参加された皆様の診療において「浜松で得た知識」が少しでもお役に立ていただければと考えております。

学術プログラム

大会は特別講演、文化講演、シンポジウム、企業セミナー、ポスター発表で構成されています。

特別講演1は浜松医科大学皮膚科教授（現：中東遠総合医療センター / 皮膚科・皮膚腫瘍科診療部長 / アレルギー疾患研究センター長）の戸倉新樹先生にご講演いただきました

（**図2**）。ご存じのように戸倉先生は日本だけではなく世界の皮膚科学会に大きな影響を与え、多大な貢献をされてきました。学問においても多くの疑問を解決された先生です。ご講演では、ご自身が直接関わった患者さんから学ばれたご経験を通して、「今日的な皮膚疾患に辿りつくまで」というテーマで理論的にわかりやすくお話しいただきました。

先生に供覧、解説していただいた疾患は1) リンパ腫、2) 蚊に刺されて生じるアレルギー、蚊刺過敏症、3) 薬剤性光線過敏症、4) 成人T細胞白血病/リンパ腫、5) IgG4関連皮膚疾患、6) 汗の少ない、減汗（げんかん）性コリン性蕁麻疹、7) 内因性アトピー性皮膚炎、8) B型肝炎ワクチンによる Gianotti-Crosti 症候群など、多岐にわたりました。学問を究めていくとは、こういうことなのだと感動いたしました。



図 2

文化講演は本来であれば開催されるはずであった、東京オリンピックを記念して、静岡県沼津市出身の岩崎恭子さんに「泳ぐ縁」という意味あいで、泳縁（えいえん）というテーマでお話いただきました（図3）。

岩崎恭子さんは水泳を始めるとすぐに頭角を現わされ、12歳で日本選手権に出場されています。1992年には14歳でバルセロナ・オリンピックに出場し、競泳史上最年少で金メダルを獲得しました。「今まで生きてきた中で一番幸せです」金メダルを決めたレースの直後に語られたこの言葉は、熱く国民の心に刻まれました。1998年の引退後も、水泳の指導や普及活動、様々な情報を発信されご活躍されています。14歳で金メダリストということで、華やかな、話題性のある場面しか印象にありませんでしたが、その後のご苦勞、挫折について赤裸々にお話をいただきました。「途中水泳が嫌になった時期もあったが、水泳との出会いが今を支えている」という、私達にも勇気を与えていただける講演になりました。



図3

特別講演2は日本医師会常任理事の松本吉郎先生に次期診療改定についてというテーマでお話をいただきました（図4）。松本先生は昭和55年浜松医科大学医学部を卒業され、私の1年先輩になります。平成28年6月からは日本医師会常任理事に就任され、診療と医師会活動にご尽力されています。超高齢社会を乗り切る必要性があるという総括的なお話がありました。さらに、次期診療報酬改定では、医師の働き方改革の進め方、そして、団塊世代の後期高齢者増加による国費の急増、新型コロナ対策のための費用増大に伴う対応の必要性などのお話をいただきました。



図4

35のシンポジウムはプログラム委員長の戸倉先生を中心に、各領域から、幅広く現在の話題や問題点になるようなテーマで構成いたしました。各シンポジウムの座長、演者の皆様にはご快諾していただき、教育的なお話をいただきました。さらに33の企業セミナーも開催され、大会テーマに配慮された内容になっておりました。

一般演題はすべてポスター展示による自由討論形式で行いました。この状況下で70題以上のご発表を行っていただきました。しかしながら、現地参加者のみが閲覧、議論できることになってしまいました。デジタルポ



図5

スターという方法もありましたが、今回はそこまでの準備ができなく、現地に参加できない方への配慮が十分でなく、大変申し訳なく思っております（図5）。

また、企業展示会場でも企業・団体の参加が約50社あり、参加者とのやりとりが行われていました。

会員同士の懇親会を楽しみにされていた方も多かったと思いますが、残念ながら開催することは困難でした。その代り、浜松開催の思い出として、学会バッグは江戸時代から浜松・遠州地方に伝承されている、希少な織物「遠州綿紬」を使い、職人の方々の手作りによるバッグをご用意いたしました。本大会の思い出にしていだければ幸いです。

おわりに

2020年は世界中でコロナウイルスに翻弄された年でありました。しかし、2021年の今でも沈静化しておりません。その中で、本大会も大きく修正、変更を余儀なくされました。最終的には現地開催、リモート参加、オンデマンド配信の構成といたしました。総会の形を整えつつ、現地参加者の感染防御の対応を議論し、安心、安全を確保することに尽力をつくしました。いざ、始めてみますと、医療関係者の集まりですので皆様の意識も高く、感染予防のため多くのご協力を得ることができました。今回、現地参加者約50名、WEBおよびオンデマンド参加者を含め1300名以上の先生方に参加していただきました。多くの座長、演者の方々にも現地にきていただき感謝しております。閉会后、体調不良などの報告も無く、無事に学会を終えたことに安堵しております。とても、とても長い準備期間でしたが今はすべてよい思い出になっています。

事務局長の三田均先生、実行委員長の鈴木健司先生、静岡県内の実行委員の先生方、さらに運営事務局の山田紀子さん、山本亜希子さんを始めスタッフの皆様には大変感謝しております。多くの皆様に支えられた大会でした。皆様に厚く御礼申し上げます（図6）。



図6

図1：第36回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会プログラム集

図2：戸倉新樹先生の特別講演1

図3：岩崎恭子さんの文化講演

図4：松本吉郎先生の特別講演2

図5：ポスターセッション

図6：素敵な仲間達